

# 令和7年度 学校評価 (学校関係者評価)

令和8年2月19日

## 学校関係者評価のポイント

- ・ 自己評価の項目や指標は適切に設定されているか。
- ・ 自己評価の結果は指標等とともに妥当なものであるか。
- ・ 自己評価の結果を踏まえた成果と改善策は適当であるか。

## 評価の数値

- ⇒ 4：十分達成                      3：概ね達成  
2：検討の余地あり              1：不十分

## ○学校経営ビジョン（構想）

校訓である「理想」「優雅」「自主自律」の下、生徒一人一人に親身に寄り添い、互いを認め合い高め合う校風の醸成に努め、

- ① 生徒の主体的な挑戦・試行錯誤の場を支援・保障し、自信と誇り・自己肯定感と人間力を育む学校
- ② 確かな学力を培うとともに自律と協働の力を高め、持続可能な社会を維持・発展させる気概を育む学校
- ③ 学校・家庭・地域の連携により生徒の能力・適性を生かした進路を実現させ、社会に開かれ信頼と魅力ある学校

## ○具体的実践目標

### 1 確かな学力の育成（自学力の育成・教養の涵養）

- ①学ぶ意欲の向上    ②自宅学習の充実    ③基礎基本の確実な定着    ④面談の充実    ⑤「都西サポート」の効果的活用
- ⑥ClassiとICT機器の効果的活用    ⑦初期指導の徹底と指導内容の継続

### 2 人間性の涵養（自主自律の確立・豊かな心の育成）

- ①あいさつの励行    ②基本的生活習慣の確立    ③心身の健康の維持促進    ④面談の充実    ⑤部活動の推進
- ⑥ボランティア活動、及び地域活動の推進    ⑦人権教育の推進    ⑧読書活動の更なる充実

### 3 進路保証（探究活動の深化・学外との連携推進）

- ①進路指導に対する早期意識付けと3年間を見通した進路指導の体系化    ②面談の充実    ③探究活動の更なる深化
- ④国内外の高校、及び大学との連携推進    ⑤家庭、同窓会、地域との連携による進路指導の充実    ⑥主権者教育の推進

### 4 学びの場の保証（信頼される学校づくり）

- ①オープンスクール、及び中学校説明会の効果的实施    ②広報活動の充実    ③危機管理の徹底    ④相互授業研究の推進
- ⑤保護者へのきめ細かな情報伝達    ⑥内規の周知（都西ハンドブック）    ⑦安全・安心の環境整備    ⑧コンプライアンス意識の保持
- ⑨研修の計画的・効果的実施

## ○生徒に身に付けさせたい資質・能力

- ①思考力    ②想像力    ③表現力    ④行動力    ⑤コミュニケーション能力    ⑥協働力    ⑦自他肯定力

達成手段		実践関連	学校		学校関係者		
			自己評価	成果○ 改善策● 継続審議△	評価	評価・具体的意見	
教務	基本方針	各部・学年・教科と連携を密にしながら、円滑な学校運営に努める。生徒一人一人のキャリア形成能力を伸ばす教育システムを構築する。					
(1) 本校の特色化・魅力化向上につながるカリキュラム、教育活動の研究	4-① 1-⑧	3.0	○新教育課程（探究の増単、新学校設定科目）をスタートすることができた。 ○昨年度の反省記録・毎月のアンケート結果を分析し、業務の工夫改善をすることができた。 ●生徒の主体性を育む教育課程の在り方をさらに研究したい。	3.0	生成AIは、かなり効率がいろんな面で良くなります。先進校の取組を入れると、働き方改革につながると思います。  新教育課程の導入や55分授業、終礼を廃止し放課後の時間を拡充、ICTの活用など、学校全体の基盤構築において成果を上げている点は素晴らしいと思います。一方で、情報収集の組織化が課題として挙げられていますが、次年度の「生成AI活用」など、時代の変化を取り入れようとする姿勢には大いに期待しています。さらなる教育の質の向上に向け、働き方改革と並行した研究を継続してください。		
(2) 55分授業の効果的な運用の推進	1-① 3-②	3.0	○終礼を廃止し放課後の時間（都西サポート）の時間を拡充した。時間の活用について、職員・生徒間の共通理解も進んだ。 ●県内に55分授業を導入する学校が増えてきたので、効率的な運用について情報交換をしていきたい。				
(3) ICTを活用した的確な情報発信と効率的な校務処理	1-⑥ 4-⑤	3.0	○Classi（生徒・保護者用）とミライム（職員用）を活用したICT連絡で校務の効率化とタイムリーな情報発信ができた。 ●ペーパーレス化をさらに進めて、効率的な校務処理（働き方改革）をさらに推進したい。				
(4) 『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実に向けたシステムの研究	1-① 1-②	3.0	○職員研修（8/25実施）、校内授業研修会・みやざき学力向上指定校公開授業（10/24実施）で、授業力向上につながる研修が実施できた。 ●授業を中心とした質の高い教育活動に専念できる環境の充実をさらに進めたい。				
(5) 専門性を高めるための職員研修の充実	4-⑧ 1-⑧	3.0	○グループ協議（ワールドカフェ形式）を通じて、対話の時間を大切にしながら、本校の課題解決に向けたアイデアを共有することができた。 ●次年度は、生成AI活用に関する研修会も早期に計画したい。また、職員アンケートを早期に実施し、先生方のニーズに合った研修を考えたい。				
(6) 全国の先進的な取り組みに関する幅広い情報収集	1-①	2.0	●本年度は、各先生方個人の研修参加に委ねられて、組織的に取り組むことができなかった。 ●次年度は、生成AIを活用した校務の効率化や授業実践をしている先進校視察を企画、提案したい。				

生活支援	基本方針	安全で健やかな学校生活の実現			
(1) 規律とマナーの確立	2-① 2-② 2-⑧	2.8	<p>○挨拶については概ね良好である。</p> <p>●自習中や、送迎場でのスマホ使用がみられた。校則変更に向けて、生徒職員での見回りや生徒会の取組を強化したい。</p>	3.0	<p>生徒会や実行委員会が中心となり、本校独自の行事や地域連携を実現できている点は、生徒の自己有用感を高める上で非常に有意義だと感じます。特に、中庭の活性化において地域企業やOBを巻き込んだ生徒主体の活動は、開かれた学校づくりを象徴する素晴らしい成果だと思います。</p> <p>一方で、「校則改正の流れを主権者教育につなげる」という方針は、現代の教育ニーズに合致した非常に前向きな取り組みだと思います。大人が一方向的にルールを課すのではなく、生徒自身が「どうすれば快適な生活が送れるか」を考え、行動できるような環境づくりを、引き続き支援していただきたいと思います</p>
(2) 心身の健康維持・向上	2-③ 2-⑤ 2-⑥ 2-⑦	3.4	<p>○関係職員の迅速な対応で、感染症の拡大を防ぐことができた。</p> <p>●職員体育や講演会を実施し、職員のストレス解消を図る機会を設けたい。</p>		
(3) 安全・衛生的な学校環境の整備	4-⑥	3.2	<p>○環境についてのアンケートを職員に実施し、施設面、衛生面共に改善を図れた。</p> <p>●清掃時間の指導が行き届かず、汚れたままになっている場所が見られた。美化委員の活動を活性化させたい。</p>		
(4) 自律した生徒の育成	4-⑤	3.6	<p>○生徒会・実行委員会の活躍で本校独自の学校行事を実施できた。また、中庭活性化で地域企業やOBを巻き込んだ生徒主体の活動ができた。</p> <p>△校則改正の流れの中で、たくさん生徒の意見を取り入れることで、主権者教育につなげたい。</p>		

進路指導	基本方針	本校の教育目標のもと、学習指導とキャリア教育の推進を図りながら、予測困難な社会において生徒が主体的に自己実現を果たすための進路指導を推進する。生徒一人ひとりに親身に寄り添い人間的成長を支え、これからの時代に求められる資質・能力を備えた、未来を切り拓く気概と行動力に溢れた人材を育む。				
(1) 学習活動の習慣化と進路意識の醸成	1-②④	3.0	○スタディサポートを活用した二者面談の充実(1,2年) △平日、休日の学習計画と実行による学習のリズム作り	2.8	推薦など、職員の負担軽減が気になりました。  推薦についての進路指導は、非常に大切だと思います。高校も選ばれる要因にもなるので、今一度、検討していく事が、望ましいと思います。  予測困難な社会を生き抜く力を育むという方針のもと、「オープンキャンパスや職業体験への自主的参加の増加」が見られる点は、生徒の主体性が育っている表れであり、生徒自らが進路を選択する力の育成に注力されていることが伺えます。しかし、推薦受験者の増加による教職員の負担増は、手厚い指導を維持する上で、課題であると感じます。今後は、ICTの活用や指導の共有化を一層進め、教員の負担軽減と生徒への手厚い支援を両立させる「効率的・組織的な改善」の具体化に注力していただきたいと考えます。	
(2) 生徒の進路選択力と主体的な学習活動の育成	1-①⑤	3.5	○オープンキャンパスや職業体験および大学等主催の講座、体験活動等への自主的参加の増加 △ポートフォリオ作成や振り返りによる進路目標の設定			
(3) 3年間を見通した進路指導と学習活動の体系化	3-①⑦	3.0	○進路行事における各学年との連携協力 △職業、進学意識の向上と学部学科の研究及び学力向上 △模試や講座への組織的な取組と学力検討会の見直し			
(4) 入試制度改革への対応と個に応じた進路支援	3-①②	3.0	○多様化する推薦入試に対して組織的に対応できた ●推薦受験者増による小論・面接指導の職員負担増加 △小論・面接指導の組織的、効率的な取組の改善			

図書渉外	基本方針	生徒の読書活動を推進することで、優れた知性と豊かな心を培い、自己実現を図ろうとする態度を育成する。PTA活動の推進と、生徒、保護者、職員、地域との良好な関係の構築を図り、地域に信頼される学校作りと教育活動の活性化を図る。福利厚生充実により良好な職場の人間関係を構築する。			
(1) 読書活動の推進	1-① 2-⑨ 3-③	3.1	○朝の読書を実施。○ブックトークを実施。●監督不在時の読書が不十分。●40分登校で遅刻者が多い。△登校時間の30分への変更を強く求む。△3学年全体の朝の読書の推進。	3.0	図書室の利用が少ないのは、仕方ないとも感じます。  読書活動の推進において、朝の読書やブックトーク、さらには書店と連携したポップ掲示など、生徒が本に親しむための多角的なアプローチが高く評価できます。特に「田中書店」との連携は、学校の枠を超えた生きた教育活動として、また、合格うどんもメディア等でも取り上げられ、素晴らしい取り組みと思います。 一方で、PTA活動や同窓会との連携について、コロナ禍以降の新しい形を模索されている段階と見受けられますので、あまり負担ならないような体制づくりを期待しております。
(2) 図書館利用の推進・図書資料の充実・広報活動の推進	1-① 2-⑨ 3-③	2.6	○書籍の管理と円滑な貸借に努めた。○図書委員会のカウンター当番復活。○年度途中から昼休みの司書担当が復活。●本の貸出数が絶対的に少ない。△放課後の開館も今後検討。		
(3) 図書委員会の活性化	2-⑨ 4-②	3.3	○南部支部講習会に参加。○店頭購入を実施。○田中書店と連携し、ポップを書店や校内に掲示し、活動を図書館外に広げた。○ブックカバー制作。○カウンター当番も復活。		
(4) 積極的なPTA活動の推進	3-⑤ 4-②④⑧	3.1	○FMCと合格うどんの円滑な実施。○都北地区の母親委員会の担当校として都北地区大会を運営。△PTA総会など、コロナ以降のPTA活動の在り方の検討要。		
(5) PTA広報活動の推進	3-⑤ 4-②④	3	○「葵碧」の業者依頼発行を年度末のみにし、他は校内印刷で不定期に発行する形に変更。●専門委員会としての活動がない。△他の専門委員会も含めて、体制の在り方の検討要。		
(6) 同窓会や親和会との連携促進	3-⑤ 4-⑨	3	○年4回の懇親会等を実施。○同窓会と入学・卒業式等で連携。△忘年会の参加者減。検討要。△各種講演会や講座、学校PRなどでの同窓会との連携の在り方の模索要。		

総務	基本方針	教育目標の具現化のため、学習効果を高める能力開発プログラムの構築と小中高大連携ならびに海外留学・連携校の開拓を進める。また、魅力化された本校独自の教育活動を、効果的かつ多角的に広報発信していく。	
<広報チーム> 即時・即応的な広報と戦略的なPR活動の推進			
魅力PR特化型中学校説明会の企画・運営	4-①	3.8	○前期は出身中学校の生徒によるプレゼンを取り入れ。生徒と職員のやり取りを通した印象に残る説明ができた。後期は本校の学校生活を疑似体験できるようなストーリーで説明を行い、中学生の興味を引き出すことができた。
HP・SNSの効果的な運用	4-②	3.5	○インスタグラムは、基本的に毎日投稿することで学校の日常を常に発信できた。都西生の活動等をこれからも発信し続けたい。 ●閲覧者の増加や魅力発信の観点から、動画発信も視野に入れる必要がある。
魅力的な広報物の作製	4-②	3.7	○スタイリッシュなリーフレット・クリアファイル・ポスターを制作し、配布することができた。また、本校独自の缶バッジ作成も行い、魅力発信につながった。
<学習支援チーム（探究）> 学習効果を高める能力向上プログラムの開発と運用			
夢をかなえる都西メソッド5の企画・運用	1-⑦ 1-⑤ 3-①	3.2	○本校で取り組む教育活動を体系化（SUP・面談3カ年計画・キャリア教育型IGI・高大連携プロジェクト・DXハイスクール）し、一つひとつの目的を明確に企画することができた。 ●運用の面で、今後もブラッシュアップしつつ効果の高い内容にしていく必要がある。
キャリア教育型IGIの効果的な計画・運用	3-① 3-③	3.0	○総合的な探究の時間に、大学アドミッションポリシー研究や受験科目調べなど、キャリア教育を盛り込んだキャリア教育型IGIを実施する事ができた。 △総務部としての取組となってしまうところがあるので、進路指導部との連携を行って行きたい。
コーチングを主体とした3カ年面談計画の運用	1-① 1-④ 3-② 3-④	3.0	○年度当初に3カ年面談計画を生徒・職員にデジタル配信し、概ね年間計画に基づいて取組ことができた。 ●面談を行う時間確保が喫緊の課題であり、職員の負担軽減と効果的な面談の在り方を研究していく必要がある。

3.2

HP、SNSの閲覧は、動画もいいと思います。以前、生徒さんが、都城市アピールの動画も良かったので、載せたらいいと思います。推薦などの面談が負担軽減にするには、コーチングは取り組みべきだと思います。大人になっても、コーチングは、大事です。我が社も、結構、企業に呼ばれます。大人になっても、それくらいコーチングのスキルは必須。

大学連携や地域参加プログラムにおいて、宮崎大学をはじめとする外部機関との強固なネットワークを構築できている点は、生徒の探究活動に大きな付加価値を与えていると思います。一方で、「面談を行う時間確保」や「教職員の負担軽減」が自己評価での課題として明示されており、AIの活用を含め、教職員がより生徒と向き合える環境づくりを推進していただくことを望みます。

＜連携チーム＞ 円滑な連携と連携大協力による都西魅力化計画の運用			
探究活動における大学連携の推進	3-③	3.1	○連携大学には探究活動のアドバイザーとして携わっていただいた。 宮崎大学工学部・教育学部との連携においては、県西地区版オープンキャンパス・探究DAYにおける訪問といった企画を実施することができた。次年度以降も継続的な取組にしていく必要がある。
連携を基盤とした地域参加プログラムの企画・運用	3-④	3.2	○地区の祭などに生徒を参画させる取組など、分掌の枠を超えて積極的に活動できた。探究活動では、地域の識者によりサポーターとして協力いただいた。 △地域の方々と生徒・学校がつながる機会を増やしていく必要がある。開かれた学校における生徒の育成を更に推進していきたい。
海外高校連携を目指した留学推進計画・運用	3-④	2.8	○台湾大直高級中学校との連携を基に、月1回のオンラインミーティングを実施する事ができた。 ●今年度は交流会を実施することができなかったが、今後も関係性を大切にしつつ、生徒のグローバルな学びの場を作っていきたい。

教育相談	基本方針	関係職員、保護者、必要に応じて専門機関とも連携し、いじめや不登校など、個人のもつ悩みや困難の早期発見、解決、防止に努める。			
新入生面談、教育相談週間、いじめアンケート	2-③、④、⑧	3.2	○定期的アンケート実施、聞き取り、情報共有により、早期対応できた。今後も関係職員と連携した対応を心掛けたい。○先生方の協力のもと、円滑に実施できた。●新入生面談において、実施日の延期や生徒への周知がうまくできないところがあった。	3.0	いじめアンケートは、定期的していく方がいいこと。企業でもしていますが、ハラスメント研修をすべき。また、ハラスメントで、どんな人間形成、メンタル不調になるのかを詳しくすべきと思います。先生についても同じです。  SC・SSWの定期的訪問を有効に活用し、専門的な知見をいじめ・不登校対策委員会に反映させている点は非常に心強い取り組みと感じます。また、入学前からの面談実施により、入学後のスムーズな相談室利用に繋がっている点も、切れ目のない支援として評価できます。職員研修を通じて組織全体のスキルアップにも取り組まれており、今後も複雑化する生徒の課題に対して、専門機関との強固なネットワークを維持・発展させてください。
入学前の保護者・本人との面談	2-③、④、⑧	3.0	○1名実施。その後、当該生徒による相談室利用が数回あった。		
教育相談部員の各学年会への出席、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携	2-③、④、⑧	3.3	○SC、SSWの毎週の訪問により、円滑なカウンセリングの実施、早めの情報共有ができた。いじめ・不登校委員会における専門的情報共有もありがたかった。○SSW利用が21人、SC利用が34人、と積極的利用があった。		
職会員研修（年1回）、支援会議（適時）	2-③、④、⑧	3.0	○SCを講師として職員研修を実施。○支援会議を適時開催することができた。●支援会議の日時設定に再考の余地あり。もう少し時間を確保したい。		

事務	基本方針	学校の運営基本方針及び教育活動に沿った学校事務の機能的、効率的な運営を図るとともに、安全かつ快適な教育環境を整える。			
(1) 効率的かつ効果的な予算の執行	4-⑦	3.0	○必要に応じて校内関係者と協議等を重ね、効果的な予算執行ができた。 △効率的・効果的な予算執行に対する意識の差が職員間で見られるため、予算の考え方等の周知について検討が必要である。	3.2	学校の基本方針に基づき、予算執行から環境整備、窓口対応に至るまで、多岐にわたる業務を計画的に遂行されている点を高く評価します。特に、全職員による安全点検の実施や、グリーン購入の推進など、意識の高い取り組みが見受けられます。丁寧な接遇も維持していただき、より開かれた学校づくりへの貢献を願っています
(2) 環境に優しい物品の購入や光熱水費節約の推進	4-⑦	3.0	○物品購入時にグリーン購入法適用商品を積極的に選択する等、環境に優しい物品の購入について実際に行動できている。 △前年度比で光熱水費が増加傾向であるため、積極的な節約の呼びかけが必要である。		
(3) 安全で衛生的な教育環境の整備	4-③⑦	3.0	○校内の安全点検を全職員で分担して実施する等、職員間で連携して安全で衛生的な教育環境の整備に取り組むことできた。 △建物・設備・備品等の老朽化が進んでいるため、効率的・効果的な修繕に向け、引き続き校内の状況確認等に取り組む必要がある。		
(4) 他部や各学年との連携、協力体制の構築	4-⑦	3.0	○日常的に他部や各学年との協力体制の構築を図っており、各業務において情報提供を行うことで連携を取ることができた。		
(5) 本校窓口として適切な接遇による学校のイメージアップ	4-⑦	3.5	○適宜適切な接遇・連絡を心掛け、苦情等もなく対応できた。		
(6) 学校徴収金等の納期内納入の促進	4-⑤	3.0	○振替不能の保護者に対して、適宜納入依頼を行うことで、今年度の校納金納付は順調に行われている。 △過年度（令和4年度以前）の校納金未納者2名のうち、1名は完納することができた。残り1名については完納までにまだ数年かかる予定だが、計画的に督促を行っていきたい。		

フロンティア科	基本方針	探究型学習などの多様な学びを通して高い学力と幅広い教養を身につけ、それらを活用できる総合力を備えた生徒を育成する。他者と主体的・協働的に地域や社会の諸課題に取り組むグローバルリーダーの育成を図る。				
(1) フロンティア科集会の定期開催による集団意識や学習意欲の向上	1-① 4-①	3.1	○3学年合同の集会を定期的に行うことができた。フロンティア科の縦の連携が深まり、学習意欲の向上につなげることができた。●次年度に向けての内容検討が必要である。	3.2	<p>探求活動も、これから、大切だと思います。働くことについて、1番学べる。人間力がつきます。</p> <p>3学年合同の取り組みにより、科全体としての連帯感と学習意欲の向上が図られている点を評価します。探究活動の質の向上（先行研究の吟味等）という課題も明確になっており、次年度の改善に期待が持てます。教職員の連携を密にし、生徒一人ひとりの多様な進路目標に寄り添った支援を今後も推進してください。</p>	
(2) 探究活動や合同学習会等による主体性協働性を備えた生徒の育成	2-⑥ 3-③	3.2	○探究活動や合同学習を通して主体性・協働性を育むことができた。個人での活動とチームでの活動が成長の両輪となった。●先行研究の吟味がやや不足していた。			
(3) 多様化する進路目標や入試に対応した指導・支援の充実	3-①⑤	3.0	○各生徒に対応した指導・支援を行い、探究活動の研究内容を進学に活かすこともできた。●今後は、フロンティア科に携わる職員の連携をより密なものとする必要がある。			

1 学年	基本方針	基本的な生活習慣を確立させる。また帰属意識を高め、本校生として自覚と誇りを持たせる。基礎学力の定着を目指し、授業を中心とした意欲的・継続的な学習を身につけさせる。自己理解に基づいた進路目標を持たせ、自己実現につながる主体的な文理選択を支援する。				
(1) 「なりたい自分」を見つめ直し、その実現に向けて努力するように促す。	1-① ③ ⑦ 3-①	2.8	○周囲と連携し、必要に応じて相談・共有を行うことができた。●生徒間トラブルや保護者対応に追われて時間を十分に確保できなかった。	2.8	今の保護者も、多様性に満ちていると思います。事例を見れるように、マニュアル化も必要だと思います。相談窓口みたいなものもつくれたらとも思います。  生徒一人ひとりが安心して発言できる雰囲気づくりや、互いの考えを共有する活動に重点を置かれている点は、非常に素晴らしい成果だと感じます。一方で、個別対応やトラブル対応に時間を取られ、全体への継続的な支援に課題が残った点は、現場の多忙さが察せられます。	
(2) 友の良さを認め、互いに高め合いながら、生徒が自身の強みを伸ばせるような言葉がけをする。	1-⑦ 2-③ ⑤	3	○生徒の努力や過程を評価する言葉がけを意識し、安心して発言できる雰囲気をつくれた。●一部の生徒への対応に時間を要し、他の生徒への継続的な声かけや支援が十分に行えなかった。			
(3) 自ら考え、課題と向き合う姿勢を育み、主体的に学び成長するよう生徒を支え、互いに高め合える場を築くよう努める。	1-① 2-⑤ 3-①	3	○互いの考えを共有する活動を取り入れ、高め合う学習の雰囲気をつくることができた。●主体性を引き出す関わり方について、今後も検討を重ねていきたい。			

2 学年	基本方針	思いやりを持った他者との良好な人間関係を基盤として、進路実現へ向けて残り2年間の高校生活を逆算し、主体的に学習や学校生活、探究活動に挑む力を身につけさせ、言語力・表現力の向上と自己理解、グローバルな視点での課題発見力・課題解決能力を養成することで、『将来可愛がられる生徒』に成長させる。				
(1) 進路実現探究活動を教員が年間を通して実践し、ワンチームで成果達成に挑む	3-①③④ ⑤	3.1	○外部リソースを効果的に活用しつつ、学年団が「ワンチーム」となって組織的に生徒を支える指導体制を構築・実践できた。●教員や生徒がより万全な準備や心構えを持って取り組めるよう、実施計画の早期策定と迅速な共有の徹底	2.8	自分の強みは、言えるように、他者紹介などをやりながら、ジョハリの窓を使い、学んでいく方法など、楽しく、いいところ探しができるといと思います。自分の価値観まで、考えられると、また、頑張れそう。  学年方針である「将来可愛がられる生徒」の育成に向け、学習面だけでなく、他者への思いやりや主体的な探究活動など、多角的なアプローチがなされていると思いました。特に、ICTの有効活用や「褒める・励ます」指導により、生徒の自己肯定感や表現力が着実に向上していることが感じられます。また、OBや地域住民との連携は、社会との繋がりの中で自己理解を深める貴重な機会となっており、非常に有意義と感じます。改善点として挙げられている「情報モラルの育成」や「学習習慣の定着」については、ご家庭とも連携を密にし、一過性の刺激に終わらせない継続的なフォローアップを期待しています。	
(2) 授業、都西サポートを通じた基礎学力の充実および応用力の養成	1-③⑤⑦	2.8	○課題の方法の変更やできるまで挑戦させる仕組みによって、生徒の学習に対する自主性と真剣さが引き出され、下位層の学力底上げに一定の成果●日常的な学習習慣へと定着させること、他校と遜色のないレベルまで応用力を高めていくこと			
(3) 全教育活動を通して、他者を思いやり尊重する姿勢を育む	2-①③④ ⑧	3.1	○他社を慮ることができる生徒は育っていると感じる。●一部の女子生徒間の気持ちの行き違いは無くならないのが現状			
(4) タブレットの活用を通じた思考力・表現力の育成	1-①④⑥ 3-②⑤	3.6	○多くの教員が授業やIGIでICTを創意工夫して有効活用しており、プレゼンテーション機会の創出を通じて、生徒の表現力が着実に向上●情報モラル・リテラシーの育成や自習時のタブレット使用ルールの検討を進めるとともに、思考力のさらなる強化			
(5) 縦の連携(1・3年生、OB、小中学生)を通じた進路の早期意識付け	2-⑤⑥ 3-①⑤	2.6	○OB(卒業生)との繋がりを構築できたほか、卒業生や教育実習生による体験談を通じて、生徒が将来について刺激を受ける機会を創出●連携による刺激によって得た一時的な意欲を、自己理解や具体的な目標設定、そして長期的な行動の継続へと繋げていくこと。			
(6) 機会を捉えて、生徒を褒める・励ますことで自己肯定感を高め、更なる成長を促す	1-①④ 2-③④⑧ 3-②③	3.6	○「ジャンピングアップ表彰」や「ポキャコン表彰」などの機会を捉えた励ましや、Classi等のツールを通じたこまめな声かけを継続することで、生徒の意欲向上に繋がった。●成功体験が少ない生徒に対しても、教師側から積極的に「良さ」や「強み」を自覚させるきっかけを数多く創出し、面談等の指導の質をさらに高めていくこと。			
(7) スピーチや学年通信の生徒作成(裏面)で経験値を増やし、洞察力を醸成	1-①⑥ 3-①③④	3.1	○教員側が様々な工夫を凝らして実践を重ねていることで、生徒たちが着実に経験値を稼ぐことができた。●一部の生徒が得ているような良好な経験や成果を、特定の範囲に留めることなく、学年全体の生徒に対しても広く波及させ、同様の機会を保障していくこと。			

<p>(8) 計画的な面談を通した、学習意欲及び進路意識の向上</p>	<p>1-①②④ 3-①②③</p>	<p>3.4</p>	<p>○面談直後は、生徒の意識に明らかな向上が認められ、対面指導による一定の働きかけの効果が出ている。●面談で高まった意欲を一時的なものに終わらず、中長期的に維持・継続させていくためのフォローアップ体制の構築</p>
<p>(9) Classiのストーリー機能の活用による自己理解の促進</p>	<p>1-①⑥ 3-①</p>	<p>2.6</p>	<p>○度末に入力を行う習慣を設けたことで、高校生活の取り組みを即座に可視化できるようになり、次年度の進路選択における重要な判断材料を蓄積できた。●日常的に振り返る機会を設けることで、生徒自身の主体的な活動やさらなる成長へとつなげていくこと。</p>
<p>(10) 横の連携(校外の高校生、連携大学、地域住民)を通した協働力や客観的な視点の獲得</p>	<p>1-① 3-①③④⑤</p>	<p>3.6</p>	<p>○地域住民や他校の生徒との交流、校外での教職・エンジニア探究など、学外に開かれた活動を積極的に展開したことで、自ら働きかける生徒が増えるといった探究心の向上が見られた。●校外での貴重な交流機会を、一部の生徒だけでなく学年全体の継続的な「自発的行動」へと定着させ、さらに広範な生徒に波及させていくこと。</p>
<p>(11) 学年集会・学年通信による生き方の涵養</p>	<p>2-②③⑤ 4-④</p>	<p>3.8</p>	<p>○多様な人々の意見や価値観に触れる機会を通じて、生徒が他者の良さや魅力を知る「多様性の尊重」を学んでおり、それがいじめや暴力、反社会的な行動の少なさに繋がっている。●多様性への理解や良好な人間関係を維持しつつ、さらに一歩進んで、異なる意見を尊重しながら高め合えるような、より深い集団作りの継続</p>

3 学年	基本方針	進路目標達成を目指す中で、キャリア形成能力及び自他肯定力を育成し、最高学年としての都西生の誇りを醸成する。			
<p>(1) 個別最適・主体的学びによる学力向上を目指しての、スタディサプリの効果的活用等指導の工夫及び、入試に対応できる(基礎)学力を育成するための学習量を確保し、質を高める取り組み。</p>	1-①② ③⑥	2.7	<p>○スタディサプリを用いた個別最適な学びの提供。1、2年次は課題配信等で活用を促したが、3年次は、生徒が自学で活用していた。</p> <p>●推薦入試対策(小論文・志望理由書・自己推薦書・面接)の動画活用の工夫。</p> <p>△進路の多様化による、学習の取り組みの差への対応。</p>	3.2	<p>マナー研修みたいなことも必要かと思えます。</p> <p>人としてみたいなのも必要。また、コミュニケーションも大事、違うクラスとの交流の時間もあると良い。</p> <p>「スタディサプリ」の自学自習への定着や、国公立大学合格者数50名以上という高い目標に向けた「クラスの枠を超えた指導体制」は、組織としての結束力を感じます。</p> <p>また、学校行事において3年生がリーダーシップを発揮し、下級生を牽引した点は、学校全体の活性化に大きく寄与し、生徒の主体性が育っていることが伺えます。一方で、課題として挙げられている「進路の多様化に伴う学習態度の差」や「生活習慣の再徹底」については、次年度も継続して丁寧なフォローを期待します。</p>
<p>(2) 基本的な生活習慣の確立・心身の健康維持促進を基盤とし、学校行事の主体的運営、ボランティア・地域活動への積極的参加による、自主自律の精神と協働性の醸成。</p>	2-②③⑥ ⑦⑧	3.7	<p>○学校行事での牽引・主体性。学校の顔である3年生として、学校行事で後輩を引っ張ってくれる生徒が多かった。</p> <p>●登校時間、容儀面、自習時の状況。指導が必要な生徒がいた。</p>		
<p>(3) 生徒一人ひとりの進路実現及び国公立大学合格者50名以上を達成するための協力・連携・協働体制。クラスの枠を超えた指導の工夫。</p>	3-①②	3.0	<p>○推薦入試に向けての小論文・面接指導体制。</p> <p>○担任として一人ひとりの生徒と向き合いながらの進路指導。</p> <p>●教科担任以外でのクラスの枠を超えた指導。</p>		
<p>(4) 学年通信や学年集会・自立の時間・面談等、あらゆる機会を捉えての自他理解と将来を展望する力の醸成。</p>	3-②⑤ 4-④	3.3	<p>○学年通信の発行。毎週金曜、確実に配信されていた。</p> <p>○担任による面談。随時行われ、進路実現につなげられていた。</p> <p>●クラスの生徒以外の生徒に話をする機会。</p>		